

CLARINET

クラリネット

持丸秀一郎 もちまる・しゅういちろう



◆出身 武蔵野音楽大学、同大学院、ハンガリー国立リスト音楽院
◆所属 日本センチュリー交響楽団首席奏者 日本クラリネット協会理事
◆趣味 料理、ドライブ
◆血液型 B型
◆星座 てんびん座
◆読者にひとこと 常に謙虚な気持ちで音楽に接してください
◆手紙の送り先 BJ 氣付

クレッシェンドの魅力

心地よい季節はあっという間にすぎ、はじめとした季節がやってきましたが、みなさん楽しく練習していますか？

先月の課題、「*f*で音を響かせること」ができるようになったら、今度は音量を変えてロングトーンの練習をしてみましょう【譜例の①・②・③】。この練習は、まずはすべて発音時のタンギングはなしで行なってください。また、*p*で始まる・終わるときは、息の流れる音（スー……という音）が聴こえて大丈夫です（むしろ、ここでは“スー”と聴こえることが重要です）。それぞれの音量での注意点を譜例と一緒に書いてあるので、参考にしてください。

■音量とアンブシュアの関係

リードとマウスピースの間を見てみてください。ほんの数ミリしか空いていませんか？ このわずかな隙間に息を入れるので、どんなに頑張ってもそんなにたくさんの量は入りません。しかも、指でちょっと押すだけで、リードは簡単にマウスピースにくっついてしまい、隙間はなくなってしまいますよね？ つまり、顎の力でマウスピースとリードを噛んでしまうと、息を入れる隙間は簡単に閉じてしまうのです。

「*f*でたくさん息が入る！」と感じている人は、アンブシュアが緩みすぎている可能性があります。音程は下がっていませんか？音が広がったり割れたりしていませんか？力任せに息をたくさん入れる……という肉体労働にならないように、自分の音色をよく聴いてください。

逆に「*p*で息が入らない！」と感じている人は、アンブシュアが締めすぎている可能性があります（ほとんどの場合は顎の力で噛みすぎている）。音程が高くなっていませんか？響きがなく、か細い筋すじのような音色になっていませんか？*p*は決して苦しい音ではありません。優しい音色・囁くような静

かな音をイメージして練習してください。

■ピアノの勘違い!!

ここで“よくある勘違い！”を紹介しておきます。みなさん*f*のときは息をたくさん使って演奏していますよね？じゃあ、*p*のときは？……*p*は少しの息で演奏すると思いませんか？実は、*p*のときもすごくたくさんの息を使います。ただ、たくさんの息を楽器に入ると大きな音になってしまうので、*p*では息の量ではなく息の圧力を高くするイメージです（実際には、*f*でも大事なものは息の量ではなく圧力です）。大ホールの最後列まで届く、密度のある、響きのある*p*をイメージして練習してください。

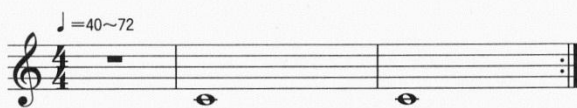
■なが〜い

クレッシェンドの曲

さて、今回は音量の話でしたが、クレッシェンド（だんだん音が大きくなる）って実はすごいことなんです。みなさん、ラヴェル作曲「ボレロ」っていう曲を知っていますか？大編成のオーケストラが約17分かけて囁くような*ppp*から、狂喜乱舞の*fff*まで大きくてなが〜いクレッシェンドを奏でる作品です。その間出てくるメロディはたった2種類！「そんなクレッシェンドだけで曲になるの？」って思うよね？でもね、この曲の持っているエネルギーってとてつもなく、演奏者もお客さんもすごく興奮するんです！

*p*の持っている静けさ・色気・緊張感、*f*の持っている躍動感・開放感・力強さ……

【譜例】



① *f* ————— *ppp*

最初に爆発して始まらないように。最後は無音まで（息の流れる音は聴こえる）。

② *ppp* ————— *f*

息の流れる音から始まり徐々に音が鳴るように。最後の*f*はとくに音色に気をつけて。

③ *ppp* <— *f* >— *ppp*

始まりと終わりは①②と同じ。とくに急激なディミヌエンドにならないように息の配分を考えて。

3 パターン共通の注意点

- 音量の変化はなだらかに
- 音量が変わるとき、音色はどのように変化しているか
- 音量が変わるとき、音程はどのように変化しているか（*f*で低く、*p*で高くなるように!!）
- 音量と吹奏感には、どんな関係が？（上級者向け）

スピーカーから流れるCDの演奏でもいいですが、可能ならぜひ実際の生演奏を聴いてください！コンサートホールで本物の*ppp*、*fff*の響きを体感してほしいです。必ずや衝撃を受けますよ。

クレッシェンドやデクレッシェンドは、みなさんもよく目にする記号かと思いますが、ただ「大きく」、ただ「小さく」とならないように、常にイメージを膨らませて演奏してくださいね。ではまた来月♪

※訂正：先月号の譜例のテンゴ表示の注意書きで、「初心者徐々に速く」とありましたが、正しくは「初心者は徐々に遅く」です。訂正します（編集部）。